株式会社栗本鐵工所

人口減少が避けられない日本のインフラを持続可能に
――社会インフラと産業設備を革新するメーカー

ここに注目！

水道更新需要などインフラ向け商材が企業基盤の強固な屋台骨
「Beyond the border!」に続き、「Go Forward!」を掲げ事業拡大をさらに加速

2024年に創業115年を迎える株式会社栗本鐵工所は、水道・ガス用鋳鉄管製造を祖業とし、社会インフラと産業設備の両分野で活躍するようになった企業。

パイプやバルブ、機械といった製造物からくるイメージや品質・信頼性などから、取引先は一様に「堅い会社」だと評する。たしかにそれは間違ってはいない。しかし前中期経営計画では「Beyond the border!」を合言葉に既存の事業基盤を確立しつつ、境界線を越えた事業分野の拡大に取り組み、現中期経営計画では「Go Forward!」とし、事業拡大を加速させている。

水インフラではパイプを製造するだけでなく、設計・施工を一貫して請け負うDB（Design Build）方式での受注体制を構築。また、磁場を与えると粘度が変わる磁気粘性流体「Soft MRF®」を用いたデバイスを開発し、ゲーム分野で採用が進む。「我々の市場や商売はここまで、というラインは、もはやない」（菊本一高社長）。栗本鐵工所はいま、堅く、しなやかな会社へと変貌している。

地球18周分、74万㎞の水道が埋設された日本

日本国内に張り巡らされた水道管路の総延長は約74万㎞、地球18周分の長さに及ぶ。その多くが高度成長期に埋設されたもので、耐用年数を超えた老朽管が増え続けている。自治体の水道技術者の減少や予算の制約もあり、20年度の管路更新率は年0.65%。更新需要は理論上、100年以上続く計算だ。

確実に顕在化する需要は同社にとって安定した収益源。しかし、菊本社長は「日本のインフラは危うい」とも語り、緊張感を滲ませる。視点の照準は未来社会だ。人口減少が加速する日本で自治体の財政や人手がさらに不足するのは必至。「より効率的な更新や、長寿命化、メンテナンス軽減を進める必要がある」とし、社会インフラを持続可能に組み替える責務の一端を担う。

このため同社は、受発注者の双方の業務効率化につながるDB方式の案件を19年に初受注。全国で実績を伸ばし、23年度末には累計受注が10件に達する見通しだ。一方、耐震型ダクタイル鉄管そのものも進化。従来比2倍となる100年の寿命を持ち、耐震性のあるGX形ダクタイル鉄管の普及を急ぐ。

持続可能なインフラへの組み替えは、パイプだけにとどまらない。橋梁分野では、長尺の複合素材を引き抜き成型する技術を活用し、軽量で錆びによる劣化がないFRP（繊維強化プラスチック）製検査路を開発。施工がしやすく、既存の鋼製検査路で必要だった定期的な錆止め塗料の塗り替え負担をなくした。「インフラ＝鉄」。そんな業界の常識を覆し、橋梁の検査路更新を中心に受注を進展。認知度が高まりつつある。

新たな事業や輸出拡大が伸びしろ

栗本鐵工所は鉄製品だけでなく、農業用水や下水道で使われる強化プラスチック複合管（FRPM）ほか、高電圧ケーブルを保護するポリコンFRP管（PFP管）など化成品製造の歴史も長く、蓄積したノウハウは多い。

「少し横に目を転じれば、貢献できることは予想以上にある」。菊本社長は実感を持ってそう語る。ハプティクス（感触）を磁力で操作できる磁気粘性流体の開発も、鉄ナノ粒子を成分とするため同社にとって“少し横”の技術。VR（仮想現実）ゲーム機やeスポーツへ採用されるなど、将来はメタバースや医療、産業機器分野への応用も期待する。

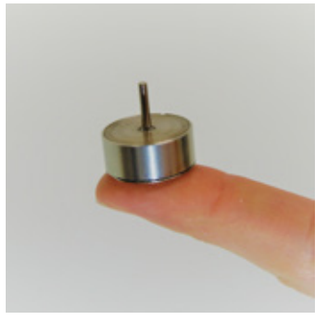
塑性加工分野では、プレス機の高性能化と海外市場での販売エリア拡大。

粉体分野では、高性能・高機能樹脂に適した混練・反応・脱溶剤システム設備の高付加価値化や前後プロセスを含むシステム提案に注力している。

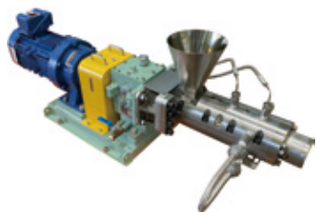
海外事業拡大に備え、従来の新人研修や管理職研修に加えて、1年間を通じた長期のグローバル人材育成も始まった。国内での座学を経て、希望者は1週間、単独もしくはペアで海外でのマーケティングなど複数ミッションをこなすプログラム。年間20人前後が選抜され、現地で得た気づきや知見を活かす人材が増えている。

菊本社長は「社員には、失敗してもいいから、やりたいことにどんどん挑戦して欲しい」と発破をかける。社員の活力が顧客に届き、自社から取引先、さらには社会へと伝播することを確信しているからだ。目指しているのは「ワクワクする会社」。栗本鐵工所が領域の縛りを無くしたのは、社会や産業でより役立つ存在になるためであり、働く人が楽しめる環境をつくるためでもある。

ダクタイル鉄管


MRFデバイス

FRP製検査路


二軸連続式混練機

鍛造用プレス機

グローバル人材育成研修では現地で体験するプログラムも実施

わが社を語る

代表取締役社長
菊本 一高氏

「未来もよし」を加えた「四方よし」の精神で

栗本鐵工所の仕事は、誰もが安心して暮らせるよう安全で強靭なライフラインを築くこと。そして、より良い製品を生み出すための素材や技術で、産業設備に革新をもたらすことです。

近年、チャレンジする組織風土を醸成することで、既存領域だけでなく、隣の領域や、想像もしなかった領域で、新たな芽が次々に出始めてきました。

「売り手よし」、「買い手よし」、「世間よし」の「三方よし」に、「未来もよし」を加えた「四方よし」が我が社の精神。手掛けている多くの製造物は一般の人の目に触れることはありませんが、いずれも社会にとって重要なものばかりです。未来を良くすることができる技術と活力を持つ会社であると自負しています。

会社DATA

所在地：大阪市西区北堀江1丁目12番19号
創業：1909（明治42）年2月
設立：1934（昭和9）年5月
代表者：菊本 一高
資本金：311億円（東証プライム上場）
従業員数：単体1,327名、連結2,107名（2023年3月末現在）
事業内容：ダクタイル鉄管類、水道用バルブ・産業バルブ、鍛造プレス、粉体処理機、プラントエンジニアリング、耐磨耗鋳物・破砕機、建築資材、FRP（M）製品等の製造販売
URL：https://www.kurimoto.co.jp/